



Title	Facebookを通じたメイプル・プログラムの広報について
Author(s)	高井, 美穂; 藤平, 愛美; 大和, 祐子 他
Citation	大阪大学日本語日本文化教育センター授業研究. 2018, 16, p. 11-21
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/68136
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

Facebookを通じたメイプル・プログラムの広報について

Public Relations Activities of MAPLE Program via Facebook

高井 美穂・藤平 愛美・大和 祐子・蔦 清行

【要旨】

本稿は、2017年度春～夏学期におけるFacebookを通じたメイプル・プログラムの広報について、その影響を統計的手法を用いて分析し、どのような情報がより多くの対象に到達するかを明らかにしようとする。

当該期の投稿を、リーチ数を目的変数とし、

- (1) 内容分類
- (2) 投稿者
- (3) 投稿時期
- (4) 投稿曜日
- (5) 参照データ
- (6) アクションの必要性の有無
- (7) これからすること／今行っていること
- (8) おすすめ情報／注意喚起情報

の8つの要因を独立変数として回帰分析を行った。

この結果、リーチ数の増加に最大の関連性を持っているのは投稿時期であること、次いで影響力があったのは投稿の内容（箕面キャンパスを中心とする大阪大学に関する情報と教員から学生へのメッセージ）であることが明らかになった。

この結果は、広報活動が有効に機能していること、現役生と修了生のCJLCへの愛着の反映と解釈される。

1 はじめに

1-1 目的

本稿は、2017年度春～夏学期におけるメイプル・プログラムの広報活動のうち、Facebookを通じたものについて、その影響を分析し、どのような情報がより多くの対象に到達するかを明らかにしようとするものである。

1-2 背景

メイプル・プログラムの広報は、Facebookと日本語日本文化教育センター（以下CJLCと呼ぶ）Webサイトの二つを通じるものが主なものである。

このうちFacebookを通じた広報は、現役のメイプル・プログラム学生を主たる対象とした情報を発信している。もちろん、過年度の学生もよくこのFacebookページにアクセスしているようではあるが、彼らに対してどのような情報を発信すべきかという点について、未だ十分に議論されているとは言えない。それは大学全体の運営や広報の戦略に基づき、本稿のような研究の結果も踏まえて決定しなければならないだろう。本年度はFacebookページの本格的運用を開始した最初の年であり、担当者間で十分に検討した上で、基本的に現役生に焦点を当てた情報

を発信することとした。

ではその現役生に対しては、どのような情報を配信するのが最も適当であろうか。担当者間で議論したことを簡単にまとめておこう。

まず広報の目的は、基本的に、メイプル・プログラムの魅力を多くの人々に周知し、より多くの優秀な学生が集まるようにすることである。ではどのような情報をどのように発信すれば、この目的につながっていくだろうか。

一つめの点、すなわち「どのような」という点について言えば、留学生生活をいっそう価値あるものとし、彼らの留学の満足度をより高めるようにする情報を発信するということである¹⁾。メイプル・プログラムでの留学に満足し、それを価値あるものと感じた現役生たちは、やがて原籍大学に帰ったとき、担当教員や次年度以降の学生たちに、その魅力を広めてくれることであろう。もっとも、現役生たちにどんな素晴らしい情報を発信したとしても、彼らがこのFacebookページにアクセスしなければ、その良さは伝わらない。そこで、二つめの点、すなわち「どのように」が重要になってくる。担当者による議論の結果、Facebookページについては、授業期間中は原則的に週3回、夏期休業の期間であっても週2回のペースで情報を更新することとした²⁾。Facebookのシステムでは、原則的に新しい情報ほど上位に表示される。したがって、更新を頻繁に行えば、それだけCJLCの情報が読者の目につきやすい位置に表示される可能性が高くなり、継続的な読者の獲得の期待値もそれだけ高まると言えるからである。

以上のような方針のもと、2017年度の春～夏学期から、体系的・統制的に投稿を行ってきた。しかし当然ながら、それぞれの投稿の受信者への影響力は一律ではない。どのような投稿が影響力が強く、どのような投稿がそうではなかったのか。今後の投稿の、ひいては広報の方向性を検討する基礎として、投稿の内容と影響力の関係を明らかにすることが、本稿の目的である。

2 方法

2-1 投稿について

まず、投稿について簡単に紹介する。前節で紹介したような担当者間の議論を受けてから、メイプル・プログラムのFacebookページで、2017年度の春～夏学期（5月8日から9月28日まで³⁾）に行った、70弱のポストを以下に一覧する。後の分析のため、各ポストごとに投稿日・リーチ数⁴⁾・内容の分類・投稿者の情報を併記しておく。

	内容	投稿日	リーチ数	分類	投稿者
1	見学旅行姫路城クイズ	5月8日(月)	603	A	投稿者A
2	履修登録確認(1)	5月8日(月) ⁵⁾	104	A	投稿者A
3	履修登録確認(2)	5月9日(火)	7	A	投稿者A
4	履修登録確認(3)	5月10日(水)	10	A	投稿者A
5	履修登録確認(4)	5月11日(木)	40	A	投稿者A
6	履修登録確認(5)	5月12日(金)	54	A	投稿者A
7	ネコの浮世絵	5月12日(金)	317	B	投稿者C
8	広島城クイズ	5月15日(月)	279	A	投稿者A
9	見学旅行に行く他大学学生	5月17日(水)	298	A	投稿者B

10	見学旅行世界遺産アプリ	5月19日(金)	148	A	投稿者C
11	マムシ出没	5月22日(月)	466	C	投稿者A
12	国際交流協会自国文化紹介	5月24日(水)	198	B	投稿者B
13	見学旅行実況(姫路城)	5月25日(木)	401	A	投稿者B
14	見学旅行実況(宴会)	5月25日(木)	643	A	投稿者B
15	見学旅行実況(広島)	5月26日(金)	340	A	投稿者B
16	西陣織会館	5月29日(月)	215	A	投稿者A
17	夏祭り	5月31日(水)	450	B	投稿者B
18	勝尾寺あじさい	6月2日(金)	207	B	投稿者C
19	西陣の清明神社	6月5日(月)	208	A	投稿者A
20	手織体験実況	6月6日(火)	340	A	投稿者C
21	梅雨入り	6月7日(水)	234	D	投稿者A
22	ホームステイプログラム	6月7日(水)	213	A	投稿者A
23	附属図書館のビデオライブラリ	6月9日(金)	132	C	投稿者C
24	キャンパス移転	6月12日(月)	1184	C	投稿者A
25	音楽の祭日	6月14日(水)	232	B	投稿者B
26	14冊の本棚・日本語の本	6月16日(金)	524	C	投稿者C
27	JLPT	6月19日(月)	144	B	投稿者C
28	野生動物・スズメバチ	6月21日(水)	308	C	投稿者A
29	夏祭り	6月23日(金)	375	B	投稿者B
30	七夕	6月26日(月)	198	B	投稿者C
31	注意報・警報	6月28日(水)	213	D	投稿者A
32	明日夏祭り	6月30日(金)	312	B	投稿者B
33	明日作文締め切り	7月3日(月)	342	A	投稿者C
34	気象用語	7月5日(水)	422	D	投稿者A
35	国際交流サークル	7月7日(金)	101	B	投稿者B
36	異文化理解発表会	7月10日(月)	486	A	投稿者B
37	見学旅行	7月12日(水)	366	A	投稿者C
38	花火	7月14日(金)	515	D	投稿者A
39	海の日	7月17日(月)	333	D	投稿者B
40	箕面祭り	7月19日(水)	276	B	投稿者C
41	セミ	7月21日(金)	251	D	投稿者A
42	マンホール	7月24日(月)	306	D	投稿者B
43	吹田祭り	7月26日(水)	401	B	投稿者C
44	雲	7月28日(金)	636	D	投稿者A
45	サル出没	7月31日(月)	1145	C	投稿者B
46	箕面の滝	8月2日(水)	367	D	投稿者C
47	天橋立見学旅行	8月4日(金)	346	A	投稿者A
48	帰国前手続き	8月7日(月)	459	A	投稿者B

49	郵便局で荷物を送る	8月10日(木)	395	A	投稿者C
50	お盆	8月14日(月)	409	B	投稿者A
51	教員からのメッセージ1	8月18日(金)	797	T	投稿者A
52	教員からのメッセージ2	8月21日(月)	1016	T	投稿者B
53	教員からのメッセージ3	8月24日(木)	393	T	投稿者C
54	教員からのメッセージ4	8月28日(月)	754	T	投稿者B
55	教員からのメッセージ5	8月31日(木)	273	T	投稿者C
56	教員からのメッセージ6	9月4日(月)	834	T	投稿者B
57	修了生学会で発表	9月5日(火)	1251	U	投稿者B
58	別の修了生学会で発表	9月8日(金)	306	U	投稿者A
59	教員からのメッセージ7	9月8日(金)	1005	T	投稿者C
60	クマ出没	9月11日(月)	4744	C	投稿者B
61	クマのニュース	9月14日(木)	450	C	投稿者C
62	新入生いらっしゃい	9月18日(月)	854	A	投稿者A
63	教員からのメッセージ8	9月21日(木)	792	T	投稿者A
64	新入生へのアドバイス	9月25日(月)	840	A	投稿者B
65	ハクビシン出没	9月28日(木)	444	C	投稿者C

左側から順に、内容の要約、投稿日、内容の分類をA～Uの記号で示した⁶⁾。各記号はそれぞれ

- A CJLCのカリキュラムや教育内容に関連する情報
- B 大阪・近畿など近隣で行われる催し物等に関連する情報
- C 箕面キャンパスを中心とした、大阪大学に関連する情報
- D 主に季節にあわせた、日本の文化や言語・自然の情報
- T 教員から学生へのメッセージ
- U 各界で活躍する修了生の情報

を表すものとする。

いずれの情報も、その時々々の学生たちが、学内であれ学外であれ、より豊かな留学生活を送ることを目的とするものであることは、第1節に述べたとおりである。

次に、個々の情報の内容についても紹介したい。内容の分類ごとに、それぞれの代表的なものを例に取り上げて解説を加える。

たとえばAの情報としては、1.「見学旅行姫路城クイズ」が挙げられるが、これは

みなさん、ゴールデンウィークが終わりました。今日からまた授業が始まりますよ。よかったですね！

2週間ほど先のことですが、5月25日と26日は、CJLCの見学旅行があります。行き先は姫路(ひめじ)・岡山・広島です。岡山の鷺羽温泉(わしうおんせん)で泊まります。

姫路では姫路城（ひめじじょう）を見学します。また広島では平和記念公園を見学します。図書室に資料を展示しておきますので、旅行の前に勉強しておいてください。きっと、もっともっと旅行を楽しめますよ！

クイズです。姫路城には、別の名前があります。それは鳥の名前です。どんな鳥の名前がついているでしょうか。次の4つの中から選んでください。

- 1 鷺（さぎ）
- 2 鶴（つる）
- 3 鷹（たか）
- 4 鴨（かも）
- 5 鶯（うぐいす）

…あ、5つになっちゃった。⁷⁾

という内容で、5月8日に投稿されたものであるが、5月25日～26日に行われる見学旅行をより楽しんでもらい、学習効果を高めることを目的としている。クイズ形式にしているのは、学生が姫路城について自主的に情報を調べたり、学生間で話題にしたりすることを期待したものである。

以下、B（大阪・近畿など近隣で行われる催し物等に関連する情報）については7.「ネコの浮世絵」、C（箕面キャンパスを中心とした、大阪大学に関連する情報）は11.「マムシ出没」、D（主に季節にあわせた、日本の文化や言語・自然の情報）は21.「梅雨入り」、T（教員から学生へのメッセージ）は54.「教員からのメッセージ4」を、それぞれ引用して紹介する。

B「ネコの浮世絵」

ネコは好きですか？

京都文化博物館では、6月11日（日）まで、いろいろなネコの浮世絵を見ることができますよ！

http://www.bunpaku.or.jp/exhi_special_post/always-neko/

これは京都で行われる展覧会の情報で、休みの日などをより文化的な活動に使ってほしいという意図から発しているものである。

C「マムシ出没」

！！箕面キャンパスに、マムシが出たそうです！！

マムシはヘビの一種です。毒ヘビです。毒を持っていますよ。あぶないですね。

みつけても、近づかないようにしてください。こわがりなので、ふつうは人間を見ると逃げていきます。あとは、草の中に入らないようにすれば、安全です。

いやあ、それにしても箕面は本当に自然が豊かですね。

<https://ja.wikipedia.org/wiki/ニホンマムシ>

こちらは、実際に箕面キャンパスにマムシが出没するという事案があり、学生への注意と対応を知らせることを主目的としている。必要以上に不安にさせるのもよくないと考え、「箕面は自然が豊か」という、学生の共感を得られるような軽いまとめを添えるとともに、より多くの情報を求める学生に向けて、フリーの百科事典サイト⁸⁾へのリンクを設置している。

D「梅雨入り」

メイプル・プログラムのみなさん、6月になりましたね。

6月は梅雨(つゆ)の季節です。近畿地方の梅雨入りは、平年だと、6月7日…そう、今日です。梅雨入りというのは、梅雨の始まりのこと。反対に梅雨の終わりは「梅雨明け」といいます。近畿地方だと、7月21日くらいです。

今日からだいたい1ヶ月半、日本の梅雨を楽しんでいてくださいね! …あ、食べ物はカビが生えやすいので気をつけて。

http://www.data.jma.go.jp/fcd/yoho/baiu/sokuhou_baiu.html

これは6月7日に発信した情報だが、実際にこの年はまさにこの日が梅雨入りの日となった。日本の自然や、それに対する生活者の感覚を、知識として知ることよりも、より身近なものとして体感してほしいという意図から、このような情報を選択したものである。梅雨は一般に日本人にも外国人にも好まれないが、あえて「楽しんでいて」と表現することで、そのような季節にも独特の趣があることを伝えようとした。

最後は、教員から学生へのメッセージである。これについては特に説明の必要はないと思うので、引用のみ掲げておく。

T「教員からのメッセージ4」

修了生のみなさん

××クラスの×××先生⁹⁾からのメッセージをいただきました!

ぜひ「いいね!」してくださいね(^_^)

メイプル・プログラムのみなさん、1年間のプログラムが終わりましたね。

今ごろは、もう自分の大学で、新しい学年が始まっている人もいるでしょうね。日本にいる人たちは、最後まで楽しんでいてください。

この一年間は、どうでしたか。楽しかったですか。面白くて役に立つ授業はたくさんありましたか。

春～夏学期の××のクラスは、きっとすごく楽しい話がたくさん聞けたと思います。何しろこの私が担当でしたから。

でもこれからのみなさんの人生にとって一番大切なのは、この1年間を外国で過ごした、ということだと思います。最初のうちは言葉もあまり通じなかったし、知っている人もいなかったでしょう。しかも、多くの人は初めての一人暮らしでしたね。

それが、一年経って、日本語もすごく上手になり、たくさんの友達ができて、一人でど

こへでも行けるようになりました。それは、みなさん自身の力でしたことです。自信を持っていいことです。誇りに思っていていいことです。私たちはほんの少し、そのお手伝いをしたにすぎません。

その自信と誇りは、みなさんにとって、きっと大きな力になることと思います。今でもそれを感じるかもしれませんが、10年後、そして20年後に、もっと強く実感することでしょう。世界のどこにいても、そのような気持ちを持ち続けてくれることを、私たちは願っています。

2-2 分析の方法

投稿の分析には、決定木分析を用いた。決定木分析では、目的変数（従属変数）に影響すると考えられる複数の要因（独立変数）のうち、どの要因が強く影響するのかが樹形図の形で示される。樹形図の最上部にあらわれる要因は目的変数に最も影響を与える要因であり、次のレベルには上の要因と最も交互作用がある要因が選ばれ、枝を生長させていく。このように、影響が強い要因から樹形図が描かれるが、目的変数に影響すると予想した要因であっても、他要因と交互作用がない要因は樹形図にはあらわれない。したがって、本研究のように複数の要因の目的変数に対する影響の有無、影響の強さを明らかにしたい場合に適した分析方法であると言える。なお、本研究ではFacebookの各記事のリーチ数という量的変数を目的変数とするため、決定木分析の中の回帰木分析を用いた。

本研究では、メイプル・プログラムのFacebookの各記事のリーチ数がどのような要因によって影響をうけるのか明らかにするために回帰木分析を行った。回帰木分析では、リーチ数を目的変数とし、以下の8つの要因を独立変数として分析した。独立変数として設定したのは、(1) 内容分類 (A, B, C, D, T, Uの6種類)、(2) 投稿者 (投稿者A, 投稿者B, 投稿者C)、(3) 投稿時期 (5月, 6月, 7月, 8月, 9月)、(4) 投稿曜日 (月曜, 水曜, 金曜)、(5) 参照データ (写真, URL, 写真とURL)、(6) アクションの必要性の有無 (アクションが必要なもの, 必要ないもの)、(7) これからすること/今行っていること、(8) おすすめ情報/注意喚起情報の8要因である。

3 結果

回帰木分析の結果は、図に示した通りである。メイプル・プログラムのFacebookの各記事のリーチ数に最も影響するのは、投稿時期であった [$F(2,58) = 8.229, p < .05$]。図から分かる通り、9月に投稿された記事のリーチ数 (ノード1; $M = 1152.00$) が最も多く、次に7月および8月に投稿された記事のリーチ数 (ノード2; $M = 469.09$) が多く、最もリーチ数が少なかったのは5月および6月に投稿された記事 (ノード3; $M = 335.61$) であった。このことから、各記事のリーチ数は、投稿時期が新しくなるにつれてしだいに増えていることが分かる。なお、9月に投稿された記事 (ノード1) と5月および6月に投稿された記事 (ノード3) の各ノードからは新たなノードは見られないため、9月に投稿された記事と5月および6月に投稿された記事に関しては、他の要因は記事のリーチ数に影響を与えていないことが分かる。

一方、7月および8月に投稿された記事の場合、次にリーチ数に影響を与えるのは、内容分類であった [$F(1,21) = 14.436, p < .05$]。箕面キャンパスを中心とする大阪大学に関する情報

(C) と担当教員からのひとこと (T) が書かれた記事 (ノード 4 ; $M=729.67$) は、CJLCのカリキュラムや教育内容に関連する情報 (A)、大阪・近畿など近隣で行われる催し物等に関連する情報 (B)、季節に合わせた近隣地域の情報および日本文化や言語・自然の情報 (D) が書かれた記事 (ノード 5 ; $M=377.12$) よりリーチ数が多かった。さらに、内容分類 C および T に分類される記事のうち、次にリーチ数に影響を与えるのは、投稿者であった [$F(1,4) = 17.248, p < .05$]。投稿者 A および B (ノード 6 ; $M=928.00$) は投稿者 C (ノード 7 ; $M=333.00$) より有意に多くのリーチ数を得ていた。

以上の結果から、メイプル・プログラムのFacebookの記事のリーチ数に最も影響を与える要因は投稿時期であり、一部の投稿時期においては、内容分類が次に影響を与えることが明らかになった。

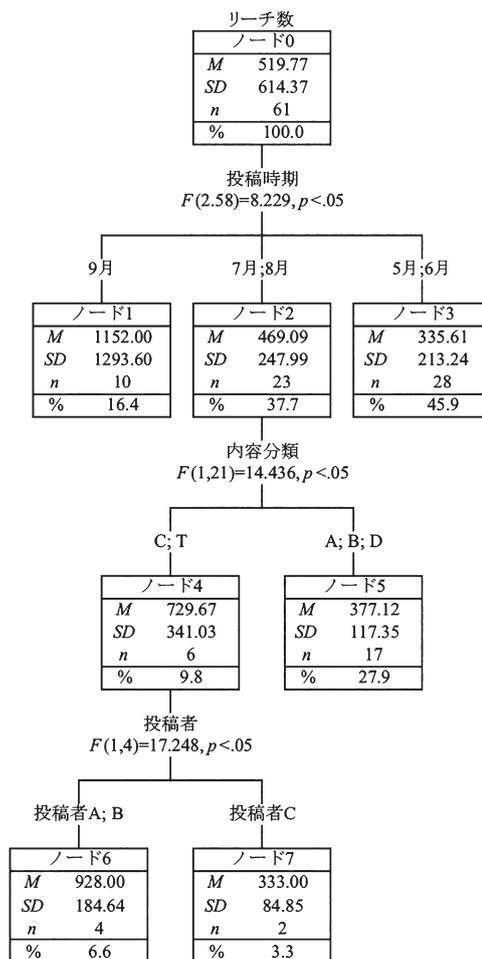
4 考察

前節では、回帰木分析を用いて、メイプル・プログラムのFacebookの各記事のリーチ数に最も強い影響を与える要因を分析した。その結果、最大の関連性を持っているのは投稿時期であることが明らかになった。すなわち、各記事のリーチ数は、投稿時期が新しくなるにつれて増加しているということが示されている。

この結果は、どのように解釈すればよいだろうか。

広報担当者たちが正式な議論を経て体系的・統制的に情報発信を開始したのが、5月のことであった。そこでは、授業期間中は基本的に週3回、夏期休業の期間であっても週2回のペースでページの情報を更新することを基本方針とした。それは、Facebookのシステムの性質上、この方法がCJLCの情報を受信者の目に触れやすくすることになるということ意識したものであった。投稿時期が新しくなるにつれてリーチ数が増すという結果は、この情報発信が、期待したとおり、受信者の目につき、徐々に読者を獲得したことを反映していると考えてよいのではないだろうか。本格的な情報発信を始める5月より前にも、投稿は間歇的に行っており、それらは内容的には5月以降のものときほど変わるものではない。にもかかわらずその時点では少数の読者しか獲得できていなかった。それはひとえに投稿数が少なく、読者の目につく機会が少なかったことによるものと考えられる。そう考えてよければ、この春～夏学期のような体系的・統制的なポストを継続的に行っていくことで、メイプル・プログラムのFacebookは、さらに多くの人々に読んでもらえる広報媒体となることが見込まれるであろう。

前節の結果において明らかになったもう一つの重要なことは、投稿時期の次にリーチ数に影響



響を与えるのが内容分類であることである。具体的には、箕面キャンパスを中心とする大阪大学に関する情報（C）と教員から学生へメッセージ（T）が書かれた記事が、多くのリーチ数を獲得していることに注目したい。

この結果は、このページを閲覧しているのが現役のメイプル・プログラム学生だけでなく、修了生（過年度生）が多く含まれていることを示唆しているのではないかと思われる¹⁰⁾。

現役生にせよ、修了生にせよ、メイプル・プログラムの学生は多様性に富んでいる。出身地域もさまざまであるし、文系の学生が中心ではあるが理系の学生も決して珍しくない。従ってプログラムの一つ一つの行事等については、強い関心を持つ学生も多い一方、それほど興味を示さない学生もいないわけではない。日本語はともかく、日本文化そのものについても、学生の関心の強弱はさまざまである。だが箕面キャンパスと、教員については、学生全員が共有する記憶なのではないかと思う。それは現役生と修了生と、いずれについても言うことであろう。いな修了生は、日本を離れて時間が経っているだけに、よりいっそうこのような情報に目を引かれるのかもしれない。日本にいない修了生にとっては、CJLCのカリキュラムや教育内容に関連する情報（A）や大阪・近畿など近隣で行われる催し物等に関連する情報（B）、主に季節にあわせた、日本の文化や言語・自然の情報（D）はあまり身近なものではないという面もあるだろう¹¹⁾。

もっとも、Facebookを通じた広報は、現役のメイプル・プログラム学生を主たる対象として情報発信することを方針としていた。したがってこのように修了生が多くの関心を寄せる情報がリーチ数を多く獲得していることは、その方針からやや外れる結果であるとも言える。しかし広報のより大きな目的は、メイプル・プログラムの魅力を広く周知し、より多くの優秀な学生が集まるようにすることであることを、忘れてはならない。現役生への情報発信も、原籍大学に帰ったとき、担当教員や次年度以降の学生たちに、その魅力を広めてくれることを期待して行っているという一面を持つ。その観点からすれば、修了生がこのFacebookページに多くの関心を抱いてくれていることは、担当者たちが当初想定していたよりも進んだ形で広報が展開していると考えられることもできる。

以上の考察を踏まえて広報の今後を考えれば、CJLCのカリキュラムや教育内容に関連する情報（A）や大阪・近畿など近隣で行われる催し物等に関連する情報（B）、主に季節にあわせた、日本の文化や言語・自然の情報（D）は現役生にとって必要かつ有益な情報であるから、今後も継続して発信すべきものであること論を俟たない。だが修了生の興味を喚起する箕面キャンパスを中心とする大阪大学に関する情報（C）と担当教員からのひとこと（T）については、さらに積極的に発信する価値があることを強調しておきたい。

5 結論と課題

以上本稿では、Facebookを通じた2017年度春～夏学期のメイプル・プログラムの広報活動について、その影響を分析し、どのような情報がより多くの対象に到達するかを明らかにした。

結論を簡単にまとめれば、まず5月から開始した体系的・統制的な投稿の仕組みが功を奏し、徐々に読者が拡大していることが明らかになった。加えて内容面では、箕面キャンパスや教員に関する投稿が、より多くの読者に到達していることも判明した。これは、読者の中に現役生だけでなく修了生も多く含まれ、彼らも関心を持つような内容であるためと考えられる。

そしてこの結論は、広報についてさらなる課題をも示唆するものと考えらるべきであろう。

第4節では、箕面キャンパスや教員について修了生が関心を持つことは自明であるかのように考えたが、当然ながらそれは、彼らが大阪大学CJLCにある種の愛着を持っているということをも前提とする。言い換えれば、大阪大学は彼らにとって「母校」の一つになっているのである。一年間という短期の留学であることを考えると、これは不思議に思われるかもしれない。だが留学生は、母国の大学とは全く異なる環境にあることを忘れてはならない。彼らはたとえば多くの友達がいるわけではなく、すぐに会えるところに親がいるわけでもない。場合によっては言葉も満足に通じない異国で、最も頼りになるのは大学、わけでもアドバイザーを中心とする教員ということになるはずである。短い期間ではあっても、そこで大学の果たす役割が強い印象を残すことは容易に想像される。特に「教員からのひとこと」の投稿が多く読者を獲得したのは、そのような理由によるものと考えられる。

ではそのような修了生に対して、大学は、あるいは我がCJLCはどのように対していけばよいだろうか。これについては、まだほとんど議論されていない¹²⁾が、「母校」としての責任を持って実行してゆくべき課題であると考えられる。本稿で論じたことの範囲で言えば、Facebookページにおける教員の投稿などは、その一つの可能性と言えるだろう。学生にとっては、留学時代こそ毎週のように顔を合わせるものの、帰国後に教員と接する機会はほとんどない。一年にせめて1回か2回、教員からのメッセージを発信し、人と人とのつながりを感じてもらうことが、「母校」としての役割を果たすその第一歩となるのではないか。このことを強調して、稿を閉じる。

【執筆者の分担について】

本稿は、全体の構想の策定をメイプル・プログラム広報担当の高井・藤平・蔦が担当し、結果の統計的な分析の部分を大和が担当した。

注

- 1) どのような情報がそのようなものであるか、その事例は第2節でいくつかの例を紹介する。
- 2) 加えて、投稿が目につきやすいよう、投稿には原則的に画像・動画またはリンクを含めることとした。
- 3) 担当者間の最初の議論は5月に行われたため、4月の投稿は含めていない。
- 4) Facebookでは、投稿を見た人の数をこのように表現する。Facebookの影響力を計量的に示す数字としては、このほかに「クリック数」や「アクション」「エンゲージメント」などがあるが、これらを用いた分析については、別に考えたい。
- 5) 投稿は原則的には週3回であるが、特別に周知したい情報などがあるときには、例外的にそれ以上の数投稿を行った。この週はCJLCの「履修登録確認期間」であったので、そのことを毎日リマインドした。13～15の「見学旅行実況」等も同様。
- 6) 分類に関しては、その基準や粗密の程度でいろいろな方法があるだろうが、さしあたり、この6分類で分析を試みる。
- 7) メイプル・プログラムの学生の日本語能力はさまざまであるため、投稿の文章は、日本語の文章の読解が得意でない者にもある程度配慮したものとしている。
- 8) 本広報はできるだけコストをかけずに活動する方針であり、リンクや画像も基本的にフリーのもののみを

使用している。このフリーの百科事典サイトが情報源として特に優れているとか、積極的に使用すべきであると見なしているわけではない。

- 9) 原投稿では、クラスと教員名が示されている。引用にあたって匿名とした。
- 10) もとより現役のメイプル・プログラム生は70名程度しか在籍していないから、リーチ数が100を大きく超えているという時点で、現役生以外の読者が多数存在していることは明らかである。細かく分析はしていないが、その中には修了生のほか、学生の本籍大学の友人や、日本人チューターなどが含まれているようである。
- 11) 注10で挙げたメイプル生以外の読者のうち、たとえば日本人チューターも、メイプル・プログラム生同様に、箕面キャンパスの情報に強い興味を示す読者であると推測される。
- 12) 広報担当者間で議論したことはあるが、広報だけで対処できる問題でもないであろう。

(たかい みほ 本センター専任講師)

(ふじひら まなみ 本センター特任助教)

(やまと ゆうこ 本センター准教授)

(つた きよゆき 本センター准教授)